

科目名	物理学		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	科学的思考の基盤		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 古谷 実／実務経験：理学療法士 病院勤務 6 年					
授業概要	専門基礎科目の運動学をはじめ、専門科目を理解するために必要な物理学と数学について学んでいく。授業はプリントを配布のうえ、スライドでの説明と演習を中心にこなす。参考書等を用いて、予習復習を積極的に実施することが望ましい。					
到達目標	身体運動のメカニズムの説明と理解など、理学療法を科学的に捉えるために必須となるバイオメカニクスの考え方を身につける。また、専門科目「物理療法学」を学ぶ上で必要となる「熱」、「波」、「電流」の基礎的内容を理解する。					
教科書	「PT・OT ゼロからの物理学」【羊土社】					
参考書	「身体運動の理解につなげる物理学」、「とってもやさしい物理基礎」					
成績評価方法	中間試験	定期試験			計	
	50 点	50 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	別途配布の「予習、復習のための参考書の利用（授業との対応表）」を参考にして実施すること。					
授業計画						講師名
第 1 回	基礎数学 物理学に必要な数学（三角比、ベクトル）					古谷
第 2 回	質点の力学 運動の記載（座標系・位置・速度と速さ・加速度）					古谷
第 3 回	質点の力学 質量と重さ、重力、重力加速度					古谷
第 4 回	質点の力学 力の表し方、いろいろな力（重力・垂直抗力・摩擦力・糸やバネの張力）					古谷
第 5 回	質点の力学 質点に働く力、作用・反作用の法則、力のつり合い					古谷
第 6 回	質点の力学 力と運動（運動方程式の適用）					古谷
第 7 回	第 1 回～3 回の総復習（演習）					古谷
第 8 回	第 4 回～6 回の総復習（演習）					古谷
第 9 回	剛体の力学 剛体とは（質点との違い）、てこと力のモーメント、剛体に働く力のモーメント					古谷
第 10 回	剛体の力学 剛体の回転運動と力のモーメント、剛体のつり合い条件					古谷
第 11 回	剛体の力学 剛体の回転運動と力のモーメント、剛体のつり合い条件					古谷
第 12 回	剛体の力学 角の表示(radian)、角速度、角加速度、剛体の運動方程式 剛体の慣性モーメント、角運動量保存					古谷
第 13 回	熱と温度、波の基礎（縦波、横波、音波）					古谷
第 14 回	電流の基礎					古谷
第 15 回	第 9 回～14 回の総復習（演習）					古谷
備考	① 授業毎にプリントを配布します。 ② 予習、復習は別途配布の「予習、復習のための参考書、問題集、別冊問題プリントの利用箇所（授業との対応表）」を参考にして実施すること。					

科目名	解剖学実習		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	実習	単位	2 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	30 コマ	時間数	60 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 櫻井 亮太／実務経験：理学療法士 病院勤務 5 年 山崎 尚樹／実務経験：理学療法士 病院勤務 6 年					
授業概要	解剖学および解剖学に基づいた骨の触診を習得する					
到達目標	骨および筋の名称、役割を理解できる 筋の階層性を理解できる 表層から正確に骨のランドマークが触診できる					
教科書	運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 【メジカルビュー】 運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢体幹 【メジカルビュー】					
参考書	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系 【医学書院】 ネッター解剖学アトラス 【南江堂】					
成績評価方法	実技試験		定期試験		計	
	50 点		50 点		100 点	
予習・復習のポイント	教科書に載っている機能解剖学的知識の習得および触診技術の向上に努めること					
授業計画						講師名
第 1 回	標本実習 肩甲骨					櫻井
第 2 回	標本実習 上腕骨					山崎
第 3 回	標本実習 橈骨・尺骨					櫻井
第 4 回	標本実習 手根骨・指骨					山崎
第 5 回	標本実習 骨盤					
第 6 回	標本実習 大腿骨					
第 7 回	標本実習 膝関節					櫻井
第 8 回	標本実習 足関節					山崎
第 9 回						
第 10 回	標本実習 脊柱					櫻井
第 11 回	標本実習 胸郭					山崎
第 12 回	触診 肩甲棘・肩峰・棘三角・内側縁・上角・下角・外側縁・烏口突起					櫻井
第 13 回	触診 鎖骨体・肩鎖関節・胸鎖関節・大結節・小結節・結節間溝外側上顆・内側上顆・肘頭窩・上腕骨滑車・上腕骨小頭					山崎
第 14 回	触診 肘頭・腕尺関節・尺骨頭・尺骨茎状突起・橈骨茎状突起（リスター結節）橈骨頭・腕橈関節・近位橈尺関節・遠位橈尺関節					櫻井

第 15 回	触診 豆状骨・三角骨・舟状骨・月状骨・大菱形骨・有頭骨・有鉤骨	山崎
第 16 回	まとめ 上肢	櫻井 山崎
第 17 回	まとめ 上肢	
第 18 回	まとめ 上肢	
第 19 回	まとめ 上肢	
第 20 回	触診 腸骨稜・上前腸骨棘・上後腸骨棘・坐骨結節・大転子・大腿骨頭	山崎
第 21 回	触診 膝蓋骨・大腿骨内外側上顆・内転筋結節・大腿骨脛骨内外側顆・脛骨粗面・ガーデ ィ結節・腓骨頭	櫻井
第 22 回	触診 内外果・距腿関節・距骨・踵骨隆起・載距突起・距骨下関節・舟状骨粗面・ 母指リスフラン関節	山崎
第 23 回	触診 外後頭隆起・上項線・下項線・環椎横突起・頸椎棘突起・腰椎棘突起（ヤコビー線）・ 胸椎棘突起	櫻井
第 24 回	触診 胸骨柄・頸切痕・胸骨角・剣状突起・第 1～7 胸肋関節	山崎
第 25 回	まとめ 下肢・体幹	櫻井 山崎
第 26 回	まとめ 下肢・体幹	
第 27 回	まとめ 下肢・体幹	
第 28 回	まとめ 下肢・体幹	
第 29 回	まとめ 上肢・下肢・体幹	櫻井 山崎
第 30 回	まとめ 上肢・下肢・体幹	

備考	<p>授業中は私語を慎み、真面目に取り組むこと</p> <p>授業中の睡眠では十分に疲れが取れないので、寝るなら帰宅するように</p> <p>授業時間外の実技練習は行えない状況なので触診技術の習得は授業中に集中して努めること</p>
----	--

科目名	運動学 I		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	4 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	30 コマ	時間数	60 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 古谷 実／実務経験：理学療法士 病院勤務 6 年 松井 剛／実務経験：理学療法士 病院勤務 10 年					
授業概要	専門科目につながる身体運動の力学（バイオメカニクス）の基礎および、生体の構造と機能について学んでいく。					
到達目標	国家試験合格レベルの当該範囲の知識を習得できる。					
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第 4 版					
参考書	プロメテウス解剖学アトラス 頭部・神経解剖【医学書院】 前期「物理学」で購入した参考書と問題集					
成績評価方法	定期試験	中間試験			計	
	75 点	25 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	教科書、配布資料を参考に。練習問題がある場合はそれを活用。					
授業計画						講師名
第 1 回	運動の記載に用いる数学（ベクトル：位置ベクトル、成分表示）					古谷
第 2 回	身体運動と力学、物体の運動（位置・速度・加速度）のベクトル表示					古谷
第 3 回	Newton の運動法則（第 1、第 2、第 3 法則）、「系」と「内力・外力」					古谷
第 4 回	歩行中の床反力の特徴					古谷
第 5 回	仕事・仕事率・力学的エネルギー・運動量					古谷
第 6 回	力学的エネルギー保存の法則・運動量保存の法則					古谷
第 7 回	剛体の重心、重心の求め方					古谷
第 8 回	体節の重心と身体重心					古谷
第 9 回	1 回～ 8 回のまとめ					古谷
第 10 回	剛体の慣性モーメント、角運動量保存の法則					古谷
第 11 回	てこの 3 種類（第 1、第 2、第 3 のてこ）とその例					古谷
第 12 回	人体の中のとてことその例、身体運動における力のモーメント					古谷
第 13 回	てこと力学的有利性、関節モーメントについて					古谷
第 14 回	国家試験 計算問題の紹介					古谷
第 15 回	10～14 回のまとめ					古谷
第 16 回	細胞の構造と機能					松井
第 17 回	神経の興奮伝導と末梢神経					松井
第 18 回	関節の構造と機能					松井
第 19 回	骨格筋					松井
第 20 回	末梢神経系					松井
第 21 回	中枢神経系（1）					松井
第 22 回	中枢神経系（2）					松井
第 23 回	中枢神経系（3）					松井
第 24 回	反射					松井
第 25 回	感覚					松井
第 26 回	呼吸機能					松井
第 27 回	心臓と循環					松井
第 28 回	腎機能					松井
第 29 回	運動生理					松井
第 30 回	まとめ（16 回～29 回）					松井
備考						

科目名	運動学Ⅱ		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	4 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	30 コマ	時間数	60 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 松井 剛／実務経験：理学療法士 病院勤務 10 年 ◎ 佐々木 千裕／実務経験：理学療法士 病院勤務 8 年					
授業概要	身体の主要関節の運動について理解する。 基本的な動作分析方法、運動処方原則、姿勢の理論を学ぶ					
到達目標	各関節の運動に関わる構造上の特徴、運動に関わる、靭帯、筋の作用の理解。 各関節の運動についての理解。 動作分析、姿勢分析に必要な基本的な知識を習得する					
教科書	基礎運動学 補訂 6 版【医歯薬出版株式会社】					
参考書	各種解剖書					
成績評価方法	定期試験	中間試験	その他		計	
	100 点				100 点	
予習・復習のポイント	関節運動の理解が必須。授業の内容の理解のために、予習と復習を十分に行うこと。 教科書の精読に加え、不足している解剖学的知識の復習を十分に行うこと。					
授業計画						講師名
第 1 回	筋運動学（下肢）					松井
第 2 回	筋運動学（下肢）					松井
第 3 回	筋運動学（上肢）					松井
第 4 回	筋運動学（上肢）					松井
第 5 回	筋運動学（体幹）					松井
第 6 回	小テスト・関節運動学（股関節）					松井
第 7 回	関節運動学（股関節）					松井
第 8 回	関節運動学（膝関節）					松井
第 9 回	口頭試験					松井
第 10 回	口頭試験					松井
第 11 回	関節運動学（足関節）					松井
第 12 回	関節運動学（肩関節）					松井
第 13 回	関節運動学（肩関節）					松井
第 14 回	関節運動学（肘関節）					松井
第 15 回	関節運動学（手関節）					松井
第 16 回	関節運動学（体幹）					松井
第 17 回	まとめ					松井
第 18 回	中間テスト					松井
第 19 回	運動と動作の分析					佐々木
第 20 回	作業・動作の分析					佐々木
第 21 回	身体運動能力の検査					佐々木
第 22 回	身体運動のエネルギー代謝					佐々木
第 23 回	運動処方					佐々木
第 24 回	姿勢と重心					佐々木
第 25 回	立位姿勢の安定性①					佐々木
第 26 回	立位姿勢の安定性②					佐々木
第 27 回	立位姿勢の異常①					佐々木
第 28 回	立位姿勢の異常②					佐々木
第 29 回	まとめ					
第 30 回	まとめ					
備考						

科目名	運動学Ⅲ		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 佐々木 千裕／実務経験：理学療法士 病院勤務 8 年					
授業概要	歩行・走行・運動学習に関する理解					
到達目標	正常歩行と異常歩行のメカニズムを理解する。走行の運動学的特徴を理解する。 運動学習の諸理論を理解する。					
教科書	ペリー歩行分析 正常歩行と異常歩行 原著第二版 基礎運動学補訂 6 版					
参考書	観察による歩行分析 筋骨格系のキネシオロジー 第二版					
成績評価方法	定期試験	出欠席・授業態度			計	
	90 点	10 点		点	100 点	
予習・復習のポイント	授業の内容の理解のために、予習と復習を十分に行うこと。 教科書の精読に加え、不足している解剖学的、運動学的知識の復習を十分に行うこと。					
授業計画						講師名
第 1 週	正常歩行の基礎					佐々木
第 2 週	正常歩行の基礎					佐々木
第 3 週	正常歩行 足関節／足部					佐々木
第 4 週	正常歩行 足関節／足部					佐々木
第 5 週	正常歩行 膝関節					佐々木
第 6 週	正常歩行 膝関節					佐々木
第 7 週	正常歩行 股関節					佐々木
第 8 週	正常歩行 股関節					佐々木
第 9 週	走行					佐々木
第 10 週	正常歩行 まとめ					佐々木
第 11 週	異常歩行					佐々木
第 12 週	異常歩行					佐々木
第 13 週	運動学習					佐々木
第 14 週	運動学習					佐々木
第 15 週	まとめ					佐々木
備考						

科目名	機能解剖学		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	30 コマ	時間数	60 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 山崎 尚樹／実務経験：理学療法士 病院勤務 5 年 櫻井 亮太／実務経験：理学療法士 病院勤務 6 年					
授業概要	解剖学及び解剖学に基づいた筋・靭帯の触診を習得する。					
到達目標	①筋および靭帯の名称、機能を理解できる ②筋の階層性を理解できる ③表層から正確に筋および靭帯が触診できる					
教科書	運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 【メジカルビュー】 運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢体幹 【メジカルビュー】					
参考書	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系 【医学書院】					
成績評価方法	実技試験		定期試験		計	
	50 点		50 点		100 点	
予習・復習のポイント	・ 予習：解剖学の知識 ・ 復習：教科書に載っている機能解剖学的知識および触診技術					
授業計画						講師名
第 1 回	標本実習：股関節周囲の筋					山崎
第 2 回	標本実習：膝関節周囲の筋					山崎
第 3 回	標本実習：足関節周囲の筋					山崎
第 4 回	標本実習：肩関節周囲の筋					櫻井
第 5 回						
第 6 回	標本実習：肘関節周囲の筋					櫻井
第 7 回	標本実習：手関節周囲の筋					櫻井
第 8 回	触診：長内転筋・大内転筋					山崎 櫻井
第 9 回	触診：大腿筋膜張筋・中殿筋・大殿筋					山崎 櫻井
第 10 回	触診：スカルパ三角関連・腸腰筋・縫工筋					山崎 櫻井
第 11 回	触診：大腿直筋・内側広筋・外側広筋・腸脛靭帯					山崎 櫻井
第 12 回	触診：半腱様筋・半膜様筋・大腿二頭筋					山崎 櫻井
第 13 回	触診：内側側副靭帯・外側側副靭帯・膝蓋靭帯					山崎 櫻井
第 14 回	触診：前脛骨筋・腓腹筋・ヒラメ筋・長／短腓骨筋					山崎 櫻井

第 15 回	触診：三角筋・大胸筋・棘下筋	山崎 櫻井
第 16 回	触診：小円筋・大円筋・広背筋	山崎 櫻井
第 17 回	触診：僧帽筋・菱形筋・前鋸筋	山崎 櫻井
第 18 回	触診：烏口肩峰靭帯・肩鎖靭帯・前胸鎖靭帯	山崎 櫻井
第 19 回	触診：上腕二頭筋・上腕筋・腕橈骨筋	山崎 櫻井
第 20 回	触診：上腕三頭筋・肘筋・円回内筋	山崎 櫻井
第 21 回	触診：内側側副靭帯・外側側副靭帯・外側尺骨靭帯	山崎 櫻井
第 22 回	触診：橈側手根屈筋・尺側手根屈筋・長短橈側手根伸筋・尺側手根伸筋・総指伸筋	山崎 櫻井
第 23 回	まとめ：股関節の触診	山崎 櫻井
第 24 回	まとめ：膝関節の触診	
第 25 回	まとめ：足関節の触診	
第 26 回	まとめ：肩関節の触診	
第 27 回	まとめ：肘関節の触診	
第 28 回	まとめ：足関節の触診	
第 29 回	まとめ：上肢の標本実習	
第 30 回	まとめ：下肢の標本実習	

備考	授業中は私語を慎み、真面目に取り組むこと 触診技術の習得は授業中のみでは困難なので授業時間外の練習を十分に行うこと	
----	--	--

第1回

主題	股関節周囲の筋骨格について			
科目の中での位置づけ	股関節周囲の触診に必要な基本知識の修得			
コマ主題 細目	①	股関節周囲の骨格構造	②	股関節周囲の筋の 神経支配
	③	股関節周囲の筋の作 用および機能	④	
細目レベル	①	股関節周囲の骨格構造を、筋の配列を中心に 腹側面と背側面に分けて説明する。		
	②	股関節周囲の筋の神経支配を筋ごとに確認する。 また、神経そのものの走行経路を説明する。		
	③	股関節周囲の筋が収縮した際の作用を運動学的に確 認する。また、構造的機能も同時に解説する。		
	④			
キーワード	①	鼠径靭帯周囲	②	内転筋群
	③	大腿側面周囲	④	殿部周囲
国家試験・ 臨床との関連	国家試験の共通基礎領域と一致する。			
予習・ 復習課題	<p>予習：配布された資料（スライド資料・テキスト資料）を熟読すること。</p> <p>復習：テキスト資料を読みながら対応するスライド資料の図をリンクさせていくこと。</p>			

第2回

第2回				
主題	膝関節周囲の筋骨格について			
科目の中での位置づけ	膝関節周囲の触診に必要な基本知識の修得			
コマ主題 細目	①	膝関節周囲の骨格構造	②	膝関節周囲の筋の 神経支配
	③	膝関節周囲の筋の作 用および機能	④	
細目レベル	①	膝関節周囲の骨格構造を、筋の配列を中心に 腹側面と背側面に分けて説明する。		
	②	膝関節周囲の筋の神経支配を筋ごとに確認する。 また、神経そのものの走行経路を説明する。		
	③	膝関節周囲の筋が収縮した際の作用を運動学的に確 認する。また、構造的機能も同時に解説する。		
	④			
キーワード	①	鼠径靭帯周囲	②	内転筋群
	③	大腿側面周囲	④	殿部周囲
国家試験・ 臨床との関連	国家試験の共通基礎領域と一致する。			
予習・ 復習課題	<p>予習：配布された資料（スライド資料・テキスト資料）を熟読すること。</p> <p>復習：テキスト資料を読みながら対応するスライド資料の図をリンクさせていくこと。</p>			

科目名	リハビリテーション概論	対象学科		理学療法学科	
		開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野	講義形態	講義	単位	1 単位
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 米本竜馬／実務経験：理学療法士 病院勤務 5 年				
授業概要	リハビリテーションの概念・理念・定義を理解した上で、日本における医学的リハビリテーションの展開を理学療法士の視点から学ぶ。基本的内容としては、リハビリの概念、医療従事者としての倫理、チーム医療、リハビリの過程、医療・福祉の法律、地域リハなどについて学習する。				
到達目標	リハビリテーションについて、その理念、歴史、内容に付いて理解し、説明することができる。				
教科書	PT スタートガイド 基礎理学療法概論				
参考書					
成績評価方法	定期試験		計		
	100 点		100 点		
予習・復習のポイント	授業計画の各表題は、教科書の目次とリンクしています。				
回	授業計画				講師名
第 1 回	I. イントロダクション				米本
第 2 回	II. 理学療法の対象の理解 1. 脳血管障害 2. パーキンソン病、神経・筋疾患				米本
第 3 回	3. 小児疾患（脳性麻痺） 4. 変形性股関節症、人工股関節置換術、その他の整形疾患 5. 脊髄損傷による完全麻痺（対麻痺／四肢麻痺）				米本
第 4 回	6. 循環器疾患 7. 糖尿病 8. 老年症候群				米本
第 5 回	III. 理学療法の方法：評価と塗料の基礎 1. 筋力 2. 関節可動域（ストレッチを含む） 3. バランス				米本
第 6 回	4. 感覚・運動麻痺 5. 疼痛 6. 義肢装具 7. ADL 練習				米本
第 7 回	IV. 臨床実習 1. 臨床実習 2. クリニカルクラークシップ V. 理学療法の歴史と制度 1. 歴史 2. 物理療法と理学療法				米本
第 8 回	3. 地域包括ケアと理学療法（在宅） 4. 日本と世界の理学療法（現状・教育制度） 5. 理学療法の倫理 6. 診療報酬制度				米本
第 9 回	福祉機器について 発表について				米本
第 10 回	発表準備				米本
第 11 回	発表準備				米本
第 12 回	発表準備				米本
第 13 回	発表準備				米本
第 14 回	発表				米本
第 15 回	まとめ				米本
備考					